

障害者の多様な働き方と支援の実態事例集

2021年3月

PwCコンサルティング合同会社

本冊子は、厚生労働省「令和2年度障害者総合福祉推進事業」のテーマ番号 26「障害者の多様な働き方と支援の実態に関する調査研究」において実施した調査に基づき、多様な就労による自己実現ができていない個人に加え、雇用・契約する企業側の取組を、当事者や企業等の方々向けにまとめたものです。

プロフィール

名前	兼子文晴（かねこふみはる）
職業	会社経営者
企業名	ミンナのミカタぐるーぷ
所在地	栃木県鹿沼市貝島町 512-4 北星ビル 2F
事業内容	就労継続支援 A 型事業所・就労継続支援 B 型事業所・障害者施設専門 BPO（アウトソーシング）事業の運営
HP	https://minnanomikata.com/



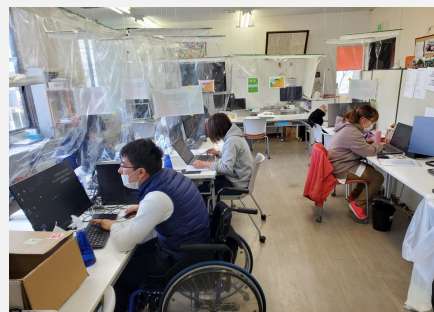
兼子文晴氏（以下、兼子氏）は「日本から障がいという言葉という概念を無くし全国800万人のミンナ（障害者の方々）のミカタになる」という思いから、2013年6月に株式会社ミンナのミライを創業しました。

現在は代表取締役として、就労継続支援 A 型事業所「株式会社ミンナのミライ」、B 型事業所「株式会社ミンナのナカマ」の運営や、障害者福祉施設特化型クラウドソーシング事業「株式会社ミンナのシゴト」を展開しており、会社のビジョンを実現すべく、日々突き進んでいます。

多様な働き方の実現におけるストーリー

背景

- ・兼子氏は結婚し子供が産まれた事をきっかけに栃木県鹿沼市に移住することになり、当時の職場の人間関係などのストレスからうつ病とパニック障害を発症する
- ・就労継続支援 A 型事業所に通うこととなり、そこではじめて障害者支援の実態を知り、就労継続支援 A 型事業の創業を決意する



取組

- ・2013年 就労継続支援 A 型事業所「ミンナのミライ」を創業し、その後 2016年に B 型事業所「ミンナのナカマ」を設立
- ・2018年 5月 から、得意とする営業スキルを活かし、受注したデータ入力やライティングなどの業務を、連携する他の福祉事業所や在宅障害者への提供も行うお仕事マッチングサービス「ミンナのシゴト」を開始



展望

- ・株式会社ミンナのシゴトを上場させ、ミンナに光を当てることで、「日本から障がいという言葉と概念を無くし全国800万人のミンナのミカタになる」という企業および自らのビジョンを実現させる



「人生のターニングポイント」となった 障害者就労継続支援 A 型事業所との出会い

うつ病とパニック障害の発症

兼子氏は、大学卒業後一部上場企業の木材系建材企業に入社し、仙台で3年半ほど勤めた。その後、退職し結婚、家庭を持ったのをきっかけに栃木県鹿沼市に移住しました。

そこで、義父の家業に従事することとなり、営業部長として持ち前の行動力を活かし営業面で会社に大きく貢献するなど、昼夜外回りの営業を行い仕事に奮闘する毎日を送っていました。

しかし、会社都合で営業本部長から降格させられるなど、不遇な扱いを受ける日々が続き、そこから強く思い悩み続けていくうちに徐々に体が思うように動かなくなっていました。

兼子氏は当時について「最終的には寝たきりの状態となり、絶望感から『自殺』することさえ考えていた」といいます。

「家族を残しては死ねない」という気持ちが後押しし、心療内科を受診することとなり、そこでうつ病とパニック障害を発症していると診断されました。

障害者のために命をかけることを決意

心療内科への通院と治療を続けていくうちに、体調が徐々によくなっていき、医師から社会復帰を目指すために「就労支援を行う事業所」への通所を勧められるようになりました。

なかなか前向きな気持ちにはなれないまま、人生で初めて就労移行支援事業所へ見学に訪れることとなり、そこで目にした、イメージから大きくかけ離れた就労継続支援 A 型事業所の姿に大きな衝撃を受けることとなりました。

兼子氏は当時の心境について「健常者と変わることなく元気いっぱいな姿で働いている障害者を持った方たちの姿にとても驚かされ、またその姿から社会復帰に向けて進むための活力をもらえた」といいます。



兼子氏と事業所で IT 作業に取り組む利用者さん

その後、鹿沼市の障害者支援の概況について気になり調べると、当時同市には障害者手帳を所持している人が4,000人いたのに対し、市内には就労継続支援 A 型事業所が一か所しかないことがわかりました。

明らかに施設の数不足という状況と、就労継続支援 A 型事業所への見学が『自殺』を考えていた自らを救ってくれたという気持ちから、「命を救ってくれた障害者の為に今後の人生を捧げたい」と強く思い障害者支援を創業することを決意しました。

一貫したビジョンのもと 多様な就労支援事業を展開

うつ病闘病と起業

現在の会社のビジョンにもなっている「日本から障がいという言葉と概念を無くし全国800万人のミナノミカタになる」という強い想いを持って起業をスタートさせたものの、やはり障害特性による業務への支障は多々ありました。

中でも著しい体力低下による影響が最も大きく、1日に長くても2時間しか思うように働くことができませんでした。そんな中、当時は人を雇用する余裕もなかったことから、事業計画の策定や事業資金調達の手配などすべて自ら行うしかなく、非常に厳しい船出となりました。

兼子氏は、創業から7年以上経つ現在のうつ病の状態について、「未だにパニック発作を起こすときがあり、毎月1回ペースで通院し、医師の指導のもと服薬している」といいます。

「攻め」の就労支援

就労継続支援 A 型事業所創業への熱意が実り、2013年6月に栃木県鹿沼市にて就労継続支援 A 型事業所「ミナノのミライ」を創業することとなりました。

「仕事は獲得しに行くもので、行政から与えられるものではない」という考えのもと、利用者それぞれの強みに合った案件を受注すべく、前職時代に培った営業力を活かし、様々な案件を受注しました。

例えば利用者が「室内作業ではなく、外で働きたい」と希望すれば、農園補助・草刈り・収穫の手伝いといった農作業系の仕事を受注するなど、地方特有のメリットを活かした新規案件開拓を行っていました。

また、県内には IT 関連サービスがほとんど存在しないという地方特有のデメリットに対しても、東京都内の企業のもとへ出向き営業活動を繰り返し行うことで、データ入力をはじめとした IT 関連の仕事の受注を成功させていきました。

「守る」支援ではなく利用者それぞれが強みを存分に発揮し輝けるような環境作りをしていく「攻め」の支援を実施している。2016年6月にはB型事業所「ミンナのナカマ」を設立させました。



兼子氏（右）と常務 小島有子氏

2018年10月には、企業や団体から受注した業務を、独自に開発した受注システムを活用し、連携する他の福祉事業所や在宅障害者へ提供する、お仕事のマッチングサービス「ミンナのシゴト」を新規事業として開始させました。

ビジョンを実現すべく、全国の事業所が十分に案件を受注し障害者が働ける環境の整備が可能となるよう、連携する事業所への案件の提供を進めています。

事業内容	概要
就労継続支援 A型事業所 株式会社 ミンナのミライ	現在28名の利用者が在籍し、施設内では主にPCでの入力作業やリスト作成・名刺入力・AI教師データの作成を行い、施設外就労ではタイヤの脱着作業や草刈り、農家の手伝い等を実施
就労継続支援 B型事業所 株式会社 ミンナのナカマ	現在30名の利用者が在籍し、施設内ではPCでの名刺入力や内職作業、施設外ではタイヤホイールの磨きを実施。
障害者専門 BPO 株式会社 ミンナのシゴト	ミンナのシゴトシステムを使い、東京都内の企業等から受注した大型のPC入力作業を就労支援事業所にマッチング。今現在、企業は上場企業8社と業務提携。登録就労支援事業所は210箇所に登る。 大手リユース企業とも業務提携を行い、内職関係も全国の就労支援事業所に提供していく。他社のBPOと違い自社で就労支援事業所を運営している事で、作業の検証等も可能。その為、就労支援事業所も安心して仕事の受注が出来る。又、障害者を中心としたSDGsの活動にも力を入れている。

ミンナのミカタぐるーぷ各事業の概要

ビジョン実現に向けた課題（兼子氏のご意見）

障害者支援業界に求められるレベルアップ

多くの就労支援事業者は、旧態依然のまま障害者を「守る」「手伝ってあげる」という態勢を取っており、「障害者は新たな戦力だ」という世間のイメージ変革に寄与できていないと認識しています。

内職的な仕事のみを受注し障害者のポテンシャルを制限するのではなく、IT関連等のより先進的な仕事にもチャレンジすることができる環境整備が業界全体に求められています。

障害者雇用率のカウント方法

現状の法定雇用率制度の仕組みでは、多くの企業が法定雇用率の充足のみを目的とした障害者雇用を行っているという状態となっています。

障害者支援業界と企業がより歩み寄り、障害者の多様な働き方を推進していく上で、雇用率のカウント方法もより多様化される必要があると考えます。

**"日本から障がいという言葉と概念を無くし
全国800万人のミンナのミカタになる"**
(兼子氏のご意見)

「障害を持っているミンナの能力は本当に凄いな！」

ミンナの「ミカタ」には「見方」と「味方」の2つの意味が含まれており、障害者に対する見方を変える味方になることを使命だと捉え突き進んできました。

一方で、「障害」という言葉に対する偏見や壁は未だ根強くあり、障害者のできることや能力は世間的に決めつけられてしまっているという現状があると認識しています。

世間が持つ「障害」という言葉に対する印象を抜本的に変革する上で、「障害を持っているミンナの能力は本当に凄いな！」と本質的に感じてもらう必要があると考えています。

兼子氏は、その手段として、「ミンナのミカタぐるーぷの上場」をあげています。

2018年より進めてきたお仕事のマッチングサービス「ミンナのシゴト」は現在、上場企業8社と業務提携し、登録就労支援事業所は既に210箇所に達しています。

今後より多くの就労支援事業所が本サービスに賛同し、全国の障害者のミンナに仕事が行き渡れば、自ずと事業規模が拡大していき、ひいてはミンナの手によってミンナのミカタぐるーぷが上場することも十分可能だと考えています。

企業そして自らのビジョン実現に向けて突き進みます。

利用者（表現者）の創作活動を支援するプロジェクト「unico（ウーニコ）」のはじまり

「あさかあすなろ荘」での創作活動のはじまり

社会福祉法人安積愛育園（以下、安積愛育園）は、1967年に知的障害児施設として、福島県郡山市で運営をスタートさせ、1997年には、成人の入所施設「あさかあすなろ荘」を整備しました。

開設当初、あさかあすなろ荘では、ボールペンのもぎり作業や、製函作業といった下請け作業を、全ての利用者の方に取り組んでもらっていました。

しかし、利用者の方の中には作業に馴染めない方も多く存在し、作業をサポートするスタッフが、作業ノルマに追われるといった状態が続くようになっていました。

そんな中、スタッフ間で「本当に今の状態で、利用者たちは、充実した時間を過ごせているのだろうか」という話し合いが行われ、日中活動の一つの選択肢として創作活動を取り入れることとなりました。

「unico（ウーニコ）」の設立

より豊かな日々を過ごしてもらおうと、作業になじめない利用者の方を中心に、絵画の作成や造形などの創作活動に取り組んでもらう、日中活動の場を整備しました。

利用者が「表現者」となり、人を惹きつける様々な作品を日々生み出していくのを目の当たりにし、「より多くの人に知ってもらいたい」という強い思いがスタッフの中に芽生えたことから、小さな作品展を開き、公募展にも応募するようになりました。



地域で行われていた展示会の様子

また、当時新たに開設されていった同法人内の通所事業所においても、あさかあすなろ荘ではじまった取り組みが広がっていき、2009年に、正式に創作活動支援プロジェクト「unico（ウーニコ）」が設立されました。

unico は、イタリア語で「唯一」「個性的」「ひとつ」という意味を指し、障害の有無に関わらず、誰もが「唯一」の存在であり、障害を含めた様々な「個性」が集まって、「ひとつ」の社会である、という想いが込められています。

「はじまりの美術館」の開設と美術館を起点とした様々な取り組み

「はじまりの美術館」の開設

unico 設立当初は、地域のイベントホールなどを借り、主に利用者の家族や地域の方を対象に、作品展を主催していました。

そんな中、伊藤峰尾氏（以下、伊藤氏）の「模様のように自分の名前を描くその作品」が、作品展を訪れた絵本作家でアートディレクターのはたよこ氏の目に留まったことから、全国障害者芸術・文化祭滋賀大会で実施された公募展へ応募することとなりました。

伊藤氏の作品は見事入選し、その後、2010年にパリで開催されたアール・ブリュット・ジャポネ展に参加することとなりました。



創作活動を行う伊藤峰尾氏

パリの展示会への出展をきっかけに、海外で高まる作品の評価を、国内に持ち帰って定着させていこうという話し合いが関係者間でされるようになりました。

様々な方策が練られ、そのうちの1案であった、国内計10か所に美術館を設置していくという構想がまとめられ、安積愛育園も同プロジェクトに参画することとなります。

震災から3年が経った2014年、日本財団の支援を受け、猪苗代町で震災を持ちこたえた「十八間蔵」という大きな蔵を改修し、「はじまりの美術館」を開設しました。

はじまりの美術館では、障害のある方の表現活動を知ってもらうとともに、障害のある人となない人の作品を分けずに展示することで、「人の持つ普遍的な表現の力」をより直観的に感じてもらい、障害のある人に対する偏見をなくし、多様性に対する理解を深めてもらうよう取り組んでいます。

また、作家による公開制作や、自身の作品を紹介するギャラリートークなど、作家と来場者が直接触れ合ってもらえる場を設け、作家の魅力をダイレクトに感じてもらうような仕掛けづくりも行っています。

2019年度より、はじまりの美術館は、「福島県障がい者芸術文化活動支援センター」として活動を開始させました。

令和2年度障害者総合福祉推進事業

テーマ番号 26 「障害者の多様な働き方と支援の実態に関する調査研究」

障害者の多様な働き方と支援の実態事例集

令和3年3月

PwC コンサルティング合同会社

〒100-0004 東京都千代田区大手町 1-2-1 Otemachi One タワー